

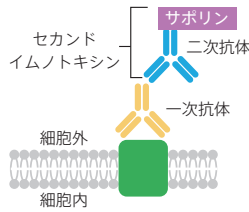


サポリン毒素を用いて標的細胞に選択的な細胞死を誘導 セカンドイムノトキシン

サポリンはサボンソウ *Saponaria officinalis* の種子に含まれる毒素タンパク質で、直接リボソームを不活性化することでタンパク質合成を阻害し、極めて低濃度で細胞死を引き起こします。

サポリン標識二次抗体 (Ab-ZAP)

- *in vitro* で使用できる二次抗体にサポリンを標識したセカンドイムノトキシンです。
- セカンドイムノトキシンは一次抗体と結合して細胞内に取り込まれ、サポリンが細胞内で遊離してリボソームを不活性化します。これにより特定の細胞のみに細胞死を引き起こすことができます。
- 一次抗体にサポリンを直接標識する必要がないため、手軽に利用できます。



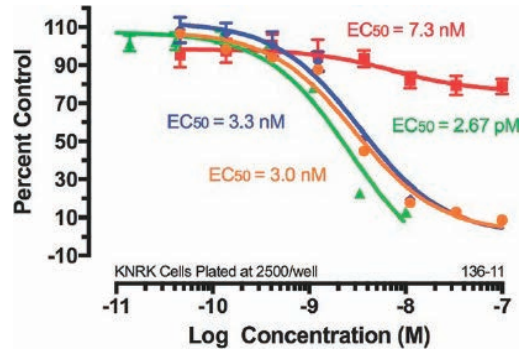
[メーカー：ATS]

標的	商品コード		
Chicken IgY	IT-62	—	—
Goat IgG	IT-36	—	—
Guinea pig IgG	IT-64	—	—
Human IgG	IT-22	IT-51	IT-65
Human IgM	IT-43	—	IT-78
Mouse IgG	IT-04	IT-48	—
Mouse IgM	IT-30	—	—
Rabbit IgG	IT-05	IT-57	—
Rat IgG	IT-26	IT-55	IT-88
Alpaca/Llama IgG (VHH ドメイン)	IT-87	—	—
包装	100 µg		
価格 (¥)	312,000		

※コントロール、サポリン、XTT/PMS が含まれるキット製品もあります。詳細はフナコシ Web をご覧下さい。

サポリン標識ストレプトアビジン (Streptavidin-ZAP)

- お手持ちのビオチン化抗体またはリガンドと結合することで、標的毒素 (ターゲットトキシン) として使用することができます。



- ◆/●: 事前に Streptavidin-ZAP (#IT-27) とビオチン標識 IB4 (イソレクチン B4) を等モル濃度で混合したもの
- : Blank-Strep-SAP
- ▲: IB4-SAP

Streptavidin-ZAP による細胞毒性効果

2,500 cells/well の KNRK 細胞を播種後、一晚インキュベートし、試薬各 10 µl を添加した。プレート を 72 時間インキュベート後に、XTT/PMS 試薬 50 µl を各ウェルに添加し、吸光度 450 nm を測定した。

[メーカー：ATS]

品名	商品コード	包装	価格 (¥)
Streptavidin-ZAP	IT-27	25 µg	115,000
		100 µg	312,000
		250 µg	662,000



サポリン毒素を用いて標的細胞に選択的な細胞死を誘導 ターゲットトキシン

細胞膜表面に発現している特定のレセプターに結合する抗体またはリガンドとサポリン毒素が結合したターゲットトキシン (イムノトキシン) です。

抗体タイプ

製品例 [メーカー：ATS]

品名	商品コード	包装	価格 (¥)
Anti-NGF Receptor, p75, Mouse, Rabbit-Poly, Saporin	IT-16 -80°C	25 µg	117,000
		100 µg	419,000

リガンドタイプ

製品例 [メーカー：ATS]

品名	商品コード	包装	価格 (¥)
Orexin-B-SAP	IT-20	25 µg	117,000
		100 µg	377,000

※その他の因子ラインナップについては、フナコシ Web をご覧下さい。また、コントロールがセットになったキット製品もあります。